

少子化社会における勤労者の仕事観・家族観 に関する調査研究報告書

「少子化社会における勤労者の家族観に関する調査研究委員会」(*主査)

* 上林千恵子 (法政大学社会学部教授) 武川 正吾 (東京大学大学院人文科学系助教授)
山田 昌弘 (東京学芸大学教育学部助教授) 前田 信彦 (立命館大学産業社会学部助教授)
山下 大厚 (法政大学社会学部非常勤講師)
佐野 嘉秀 (東京大学大学院人文科学系研究科社会文化研究専攻博士課程)

連合総研は、平成11年度厚生省科学研究費補助金による「子ども家庭総合研究事業・少子化社会における専門的研究」の分担研究「少子化社会における勤労者の家族観」をおこなった。本報告書は、さらに詳細な分析を行い、考察を加えて「少子化社会における勤労者の仕事観・家族観」として書き下ろしたものである。「仕事観」をあえて追加したのは、とりわけ女性にとって仕事観が出産・育児の上での選択と関連をもつからである。

21世紀に入り、わが国の「少子化」問題は、社会、経済、労働、人口、家庭、教育などあらゆる分野にわたって最重要課題となる。少子化の進行は、労働力人口の低下のみならず、現在の社会保障制度にも関連し、将来のわが国経済社会のあり方に大きな影響を与えることが懸念されている。その解決のためには、社会保障・社会福祉の充実など総合的な対策が必要とされているが、なかでも、勤労者にとっては結婚・育児生活と職業生活の両立は、切実かつ重要な課題となっている。

また、家族・家庭の急激な変化は、個々の生き方も問い直しており、少子化社会に大きな影響を及ぼしている。現在、家族・家庭がどのような実態にあり、構成する個々人がどのような家族観・家庭観をもっているかの調査研究は、きわめて重要な課題であるが、「少子化」の観点からの研究は十分とはいえないと思われる。

今回の調査で、家族・家庭に対する意識、結婚や子育ての意識を探ることによって、「少子化」への具体的な施策へと通じる課題がより明らかになったと思われる。

目次

- 第1章 少子化社会における勤労者の仕事観・家族観
- 第2章 育児期の仕事と家庭
- 第3章 出産・育児・子どもに関わる価値意識の諸類型
- 第4章 結婚観と子育て観
- 第5章 専業主婦の意識
- 第6章 少子化と政策ニーズ